

令和7年度 学校自己評価システムシート (県立鳩山高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人を大切にし、地域を支え地域の発展に貢献できるリーダーを育成する
--------	---------------------------------------

重点目標	1 主体的な学習態度の育成を通じた学力向上 2 キャリア教育の浸透と進路実現 3 規律ある生活習慣の確立と学校行事・部活動等の活性化 4 生徒の資質を高める地域連携・協働の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校関係者	8名
出席者 生徒	3名
事務局(教職員)	10名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(1月19日現在)			実施日	令和8年1月20日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】生徒が多様化し、個々の学力に差があり、授業規律は保たれているが主体的に学ぶ意欲が乏しい。学習習慣を身に付けるためにさまざまなドリルやプリントを行っている。</p> <p>【課題】引き続き多様化する生徒個々に合った学習指導を充実させる。ICTの活用とともに書く力の向上を図る。</p>	基礎学力の定着・学習習慣の確立と主体的に学ぶ意欲の向上	①小テストやドリル等の実施とICTの活用による「わかる授業」を継続し、生徒の学習意欲を育成する。 ②職員研修、授業見学等、教員間の学び合いを高め、授業改善を一層推進する。 ③課題提示の工夫や個々の生徒への学習支援により、主体的に学ぶ環境・意欲を醸成する。	①小テスト等の実施回数とICTの活用度の向上。 ②職員研修、授業見学等の機会確保及び授業アンケートの満足度 ③板書やパワーポイント等の工夫で、生徒の学習意欲を喚起できたか。	①小テストやプリントの活用など、生徒の興味関心を引く授業を行った。 ②授業アンケートによると、前年度に比べて授業に集中し、わからないところは周囲に聞くなどし、提出物の状況も向上した。 ③デジタルツールの活用により、双方向の授業や、資料提示などを行うことで、学習理解につながった。	a	新校へ教務の指導要録や成績資料などを計画的に引き継ぐ。 本校が比企地域において、唯一の商業系の専門学科であり、産業振興教育などの担当であったが、今後は滑川総合高校等に引き継いでいく。	創立当初は、地域に根差した学校を目指して発展し、地域の企業や役所などに就職する生徒も多かった。その意味で、地域に貢献する役割を果たしたといえる。今回の再編整備は残念ではあるが、人口減少などにより、やむを得ないと考えている。
2	<p>【現状】生徒個々の進路希望の実現を目標に進路決定状況は高い水準を維持している。資格取得の成果も向上した。</p> <p>【課題】年間を通じたキャリア教育を継続し進路実現に繋げる。早期退職の発生に対して、卒業後の見通しを立てることが必要である。</p>	キャリア教育全体の推進と個に合わせた指導による進路実現	①キャリアデザインマップに沿った進路指導に全校で取り組み、生徒の進路実現につなげる。 ②外部講師・外部機関等を活用し、進路実現に向け生徒自ら取り組む姿勢を育成する。 ③生徒の発達面を含めて個に寄り添った進路指導を実践し、ミスマッチを引き起こさない進路選択ができるよう職業観を育成し、学習意欲の向上を目指した取り組みを行う。	①キャリアプランに沿って取り組むガイダンス等の機会確保及び面接指導等の回数 ②外部講師等との連携状況と生徒の進路意識の向上 ③進路行事の実施状況と生徒の主体的な取り組みの増加、企業研究及び学校研究の取り組み姿勢、進路アンケートの実施など	①キャリアプランに則り、特に卒業学年は1学年から「総合的な探求の時間」「LHR」などを活用して、さまざまな進路指導を行ってきた。大学進学者の増加や、意欲的な就職活動につながった。 ②外部講師によるガイダンス等を計画的に実施し、成果を挙げた。 ③特に就職指導においては、生徒の適性や個性を尊重しながら、将来的なミスマッチを起こさないように気を配りながら指導を行った。	a	新校に従前からの卒業生に対応できるように調査書等の資料をまとめる。	現在までの進路実績を見ると進路希望者の増加など、「総合的な探求の時間」や各授業が良い方向で学習意欲を喚起し、生徒の進路実現につながっていると感じた。
3	<p>【現状】授業規律が保たれ、落ち着いた学習環境である。</p> <p>【課題】生徒指導提要に則った生徒指導体制の充実。教育相談体制の整備と外部との連携継続。部活動の維持を図る。生徒減少の中でも学校行事の充実を図る。</p>	基本的生活習慣の確立と自己肯定感の醸成	①生徒指導体制を推進し、落ち着いた学校生活を送ることができる環境整備を行う。 ②生徒が主体的に取り組む校内美化により自己肯定感を育成する。 ③SC、SSWと連携した校内体制を構築し外部との連携を図る。 ④式典等で校歌を斉唱し学校に対する帰属意識を高め、自己肯定感につなげる。	①学校生活アンケートの結果 ②校内美化の状況と主体的に取り組む生徒 ③教育相談体制の充実を図る。 ④校歌の斉唱の定着を図る。	①③学校生活アンケートは良好な結果であった。特に前年度から実施している県の施策である「地域と連携した中退防止事業」をSCやSSWの力を借りて実施し、生徒一人一人の主体性や自律性を育む結果となった。 ②日々の清掃や美化活動を積極的に行った。 ③校歌指導を定期的に行うことにより、自己肯定感の向上に寄与した。	a	特にありません。	鳩山高校の歩みにおいて、陸上競技部が全国的な活躍を果たし、その後は自転車競技部が同様な成果をあげることができた。部活動指導において、地域における貢献を果たしたと考えられる。 鳩山町主催の「言ってんべー、聞いてんべー大会」では、地元の中学校の発表で「鳩山町にもう一度高校を作る方法」と言う内容があった。これも近隣からの愛着や信頼の成果であると思う。
		生徒個々の課題に主体的に取り組む	①活動状況を適切に情報公開し本校の良さを知ってもらう機会とする。 ②部活動の活動方針を適切に運用し、生徒が主体となる部活動を運営する。 ③芸術鑑賞会等の行事に意欲的に参加し、視野や自らの価値観を広げる。	①部活動HPの適切な更新 ②大会等への参加状況、学校生活アンケートの結果 ③充実した行事を実施できたか。	①②③年間行事計画をもとに、いくつかの学校行事を追加することにより、生徒が主体的に参加する態度を醸成した。体育祭や部活動発表会や生徒会活動の発表、芸術鑑賞会や遠足の実施、焼きいも大会やモルック大会など、趣向を凝らしたアイデアを教職員が出すことにより、充実した一年となった。	a	特にありません。	
4	<p>【現状】学校運営協議会を活用し、保護者、地域との関りを活かした教育活動を行う。</p> <p>【課題】魅力ある高校づくり第2期再編整備計画に基づいて、本校のしめくくりを検討する。</p>	地域との連携協働の継続と再編整備に向けた活用の実施	①学校運営協議会の日程を早めて、1月までには今年度のまとめを行う。 ②越生高校との連絡を密にして、本校からの引継ぎをスムーズに行う。 ③魅力ある高校づくり課と連携して、校舎を閉じるにあたっての課題を解決する。	①学校運営協議会のまとめ内容 ②新校への様々な移行 ③校内の整理が順序良く実施できたか。	①学校運営協議会の委員から様々な提案をいただくことにより、最終年度のスムーズな学校運営につながった。 ②新校とは連絡を密にとることにより、生徒保護者が制服や校歌のアンケートに応えるなどの連携活動を積極的に行った。 ③PTAや後援会については年度末を持って解散することになった。また、他校や地域との関係について、配置転換や物品移動等が円滑に進んだ。一部の団体物品は埼玉県スポーツ協会に寄贈予定である。	a	越生翔桜高校への記念碑の設置や桜の幼木の植樹などハトミライ☆プロジェクトを形象化した。また、鳩山町のHPに動画を掲載するなど、本校の教育活動を今後活かしている。	地球観測センターへの見学や老人施設などとの関係など、近年では「実学」という学校設定科目において、地域・近隣との関係を築くことができた。また、再編整備に対しての保護者等からの意見を集約して、今後の埼玉県の施策に活用していくことが望まれる。